令和 2 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	感染症拡大防止対策備蓄物資等整備事業	会計名称	一般会計		担当課	危機管理課	
		予算科目	2 款 1 項 13 目	事業番号	488	所属長名	宮崎栄司
事業評価の有無	☒ 評価対象事業 ☐ 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	神東利明	
法令根拠等	伊予市地域防災計画				実施期間	【開始】	令和/平成 2 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 安全・安心に暮らせる災害に強いまちづくり					【終了】	令和 2 年度(予定) ☐ 設定なし
総合計画における本事業の役割							
事業の対象	避難所等		事業の目的	災害時の避難所での新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とする			
事業の内容 (整備内容)	避難所での感染症対策として使用する備品・消耗品の購入		昨年度の課題に対する具体的な改善策				

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)						
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	2年度予定	9月末の実績	2年度実績	
直接事業費		0	15,670	0	0	14,990	室内用仕切 TENT 購入数	台	0	47	47	47	
財源内訳													
国庫支出金		0	15,670	0	0	14,990							
県支出金		0	0	0	0	0							
地方債		0	0	0	0	0							
その他		0	0	0	0	0	ダンボールベッド	台	0	600	0	600	
一般財源	0	0	0	0	0	0							
職員の人工 (にんく) 数	0.00	0.10				0.10	ダンボール間仕切り	組	0	600	0	600	
1人工当たりの人件費単価	0	7,812				7,812							
※ 直接事業費+人件費	0	781				15,771							
主な実施主体	直接実施		実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)										
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年間の合計			
					30,360	0	0	0	0	30,360			
成果指標	指標	なし				⇒	区分年度	前年度	2年度	-年度	目標	2年度	
	指標設定の考え方	避難所の感染症対策としての整備であり、指標設定にはなじまない					目標						
	指標で表せない効果	感染症対策として、備品・消耗品を準備するとともに避難所マニュアルも見直し、しっかり対策ができている					実績						

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		避難所での新型コロナ感染防止対策用の備品、消耗品の購入であったが、他市町、企業などでも同様の需要があり、当初は手に入りにくいものも多く、購入には苦勞を強いられた。										
事務事業の事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が	A	事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題	担当と相談しながら、複数業者に当たるなど、手に入りにくいものについても徐々に手に入れることが出来、災害の時期にある程度整備することができた。その後、追加補正したものについても、ほぼ予定どおりのものを購入し、しっかりとした感染症対策につなげることができている。			
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に必要である。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市の積極的に関与・実施すべき事業である。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A					
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多量である。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
	効率性	手段の最適性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A		ダンボール間仕切り、ダンボールベッドについては、愛媛県総合防災訓練時に組立てに時間がかかる問題が発覚したこともあり、なるべく手間のかからないものを選定し、購入することが出来た。その他のものについても事前に現物を確認し、実用的な物品の選定を心掛けていた。			
			コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
			市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D		
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	5	合計点が	S			事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 避難所における感染症の拡大防止を図るための事業であり、現在のコロナ禍等の状況を踏まえ必要な事業である。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に必要である。	5							14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市の積極的に関与・実施すべき事業である。	5							14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A						
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4			14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多量である。	4			14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
効率性	手段の最適性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	所屬長の課題認識					
		コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	3				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	4				14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D				

施策を踏まえた判断	二次判定	☐	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		☒	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		☐	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		☐	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		☐	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		☐	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		☐	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性	コメント欄	
	☐	さらに重点化する。	
	☒	現状のまま継続する。	
	☐	見直しの上、継続する。	
	☐	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	☐	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	